

# 国語

## 出題の傾向

昨年度と同じく、①～③の大問3つの出題となりました。①の現代文は例年通り、評論文から漢字・語句の意味・品詞の識別・内容把握などを出題しました。また、②では「思考力・判断力・表現力」を問う形式の問題を、③の古文は、随筆や説話などから、語句の意味・内容把握などを、これも例年通り語注や現代語訳で補助をして出題しました。各問題の配点は、現代文50点、新しい学力観に基づく問題25点、古文25点となっています。では、以下に本年度の入試について詳しく解説していきます。

## 2022 今年度の出題と解説

①の現代文は、『ロボットの悲しみ』（岡田美智男・松本光太郎）からの出題でした。全体的には読みやすい内容であると思います。また、設問自体もこれまでと同じ傾向で出題していますので、しっかりと練習を積んだ受験生にとっては、スムーズに取り組める問題だったようです。

### 問1 漢字の問題

中学校までに学習した漢字の読み・書きから出題していますので、学校の授業などで漢字の学習をしっかりと積んで下さい。今年度の出題については、書き取り問題では、お「疎通」の正解率が非常に低かったです。特に、「疎」の漢字は、左側を「正」にしている解答が目立ちました。日頃の勉強から、正確に読み書きをする学習を心がけて下さい。また、漢字を読み書きする力は、問題集などで鍛えることはもちろん大切ですが、読書や新聞、携帯配信のニュースなど、日常生活の中で活字を読むことで鍛えられる場面も非常に多いです。日頃から、意識的に言葉に触れる機会を増やして下さい。

### 問2 国文法の問題（品詞の識別）

本校で毎年必ず出題される問題だけに、きっちりと対策を立てて勉強してほしいと思います。この問題は、毎年、きちんと対策してきた生徒とそうでない生徒の差が大きく表れます。aは、動詞と答えてしまおうですが、それは「振る舞う」という動作を表す場合です。この問題は、「振る舞い＝振る舞うこと」という意味なので、動詞を名詞に変化させた「転成名詞」であると見抜いて下さい。エ 名詞 が正解です。bは、「叱る」という動詞の下にあり、動詞に「受身」の意味を添えています。ケ 助動詞 が正解です。cは、会話文の最初に置かれ、相手に呼びかける言葉として使われています。ク 感動詞 となります。dは、「プログラム」という名詞を修飾する（＝詳しく説明する）言葉ですから、カ 連体詞 が正解となります。eは、終止形に戻すと、「未熟だ」という状態を示す語となります。正解は ウ 形容動詞 となります。

### 問3 空欄補充の問題（選択）

空欄に、適切な接続詞や副詞を入れる問題です。頻出かつオーソドックスな問題です。それぞれの言葉の持つ動きと、空欄の前後の文脈を読み取る力が必要です。Aは、前にある「素朴な道具から高度なキカイ」と、後にある「いまだ他者とはなされてない」の両方が、ロボットの事を示していると気づけば、正解にたどり着けます。つまり、ここには、前に付け加える動きのある、エ そして が入ります。Bは、前の段落の最後に「（機械と私たちの関わりは）便利だけれど物足りない、窮屈な感じもする」とあり、すぐ後には、具体的に、機械のシステムの言うとおりに動かざるを得ない、窮屈な人間の様子が書かれています。よって、Bには、具体例をあげる言葉である ア たとえば が入ります。Cは、「簡単に手に入るものなら、」の「なら」との呼応関係に注目すれば簡単です。仮定の意味をもつ、イ もし が正解です。

### 問4 内容把握の問題（選択）

本文の内容を理解して、写真の示す内容にあてはめるタイプの問題でした。設問の要求は、「新たな価値が与えられる」にあてはまらない写真を選ぶことから、まずは、本文中から「新たな価値」が何なのかを理解しましょう。本文中に述べられている「ハサミ」という道具では、道具を使うことによって、その使い手の熟練度も上がっていくと述べられています。それが「新たな価値」です。では、本文にある「道具を使うことで熟練度が上がる」例を示していないものはどれでしょうか。ア の美容師

は、ハサミを使うことで熟練度が上がるので、例と同じです。イ の切り絵アーティストも、ハサミやカッターを使うことで熟練度が上がります。また、エ の盆栽も、やればやるほどハサミの使い方が熟練するので、例と同じです。ウ の料理のみが、道具を使うことが主に熟練度を上げることにつながるわけではないので、ウ が正解になります。

### 問5 空欄補充の問題（選択）

このパターンの問題は、空欄の前後の表現に解答の根拠を探すことが大切です。ここでは、「ハサミ」は、Xの前後にある「このように…素朴な道具」であるということが読み取れたでしょうか。この内容は、前の段落に詳しく書かれています。9行目以降にある、「この素朴な道具のおもしろさは…」という箇所には、ハサミが主張しすぎない道具であり、そこに置かれただけでは用をなさない道具である、という記述があります。さらに、Xとその後にある「生成的なもの（＝なにかを生み出すもの）」が対比的な内容として語られているのも大きなヒントとなります。これをまとめて、ハサミとは、「主張しすぎず、それだけでは用をなさず、なにかを生み出すわけではない（＝つまり、目立たず、そこにあるだけで自分で価値を生み出すわけではない）」道具だと理解できれば、正解を導けるのではないのでしょうか。正解は、イ となります。

### 問6 語句の意味を答える問題（選択）

常に言葉に触れる機会を増やすことが大切です。本やニュース、新聞などでわからない言葉があった時、すぐに言葉の意味を調べたり、聞いたりして「語彙力」を増やすことで、こういう問題に対応する力が身につけていきます。国語の基礎となる力でもありますから、日頃から、言葉に敏感になっておく姿勢を養っておきましょう。また、文の流れからどんなイメージの語かを確認することも重要です。例えば、②は傍線部の前にある「X線検査で、検査員の指示にひたすら従う状況」をヒントとして、選択肢をしぼることができます。

### 問7 内容把握の問題（抜き出し）

まず、指示語の内容を確認します。「このような事態」は、前のページの「ATMやX線検査の機械を使うとき、人は指示に一方的に従う存在になる」という事態を示しています。設問の要求通り、これと同じ内容で、かつ二十二字の部分傍線部③の後から探すと、3行後に、「ロボットの采配のなかで私たちが生かされている（事態）」という記述を見つけたことができると思います。また、4ページ5行目の「関わる人を受動的な存在へと落とし込んでしまう（事態）」という解答も同意とみなせますので、正解です。

### 問8 内容把握の問題（記述）

「伝わらない」「配慮」「ロボット」という3つの言葉を必ず使って記述するという、条件付きの記述問題です。こういう問題では、条件にある言葉が記述に入っていない場合は0点となりますので、注意して解答しましょう。まず、「それはどうしてなのか」の「それ」が「（おばあちゃんに話し相手が必要だとしても、）ロボットに話し相手をしてもらう気になれない」事だと理解しましょう。その理由を考えると、まず、（1）ロボットには、おばあちゃんの心情に配慮した言葉が生み出せていない（から）という部分が浮かび上がってくると思います。さらに、その後にある、（2）おばあちゃんが気持ちを伝えようとしても伝わらない（から）という部分も理由となります。この2点をまとめて記述すれば、条件の3語は、下線で示している通りクリアしていますので正解となります。な

お、3つのワードは使用しているものの、(1)(2)のどちらかしか記述できていない解答は、△1点となります。

#### 問9 内容一致の問題(選択)

本文中の内容とそれぞれの人の意見が一致しているかを確認します。本文の内容をしっかりと理解できていれば、それほど難しい問題ではなかったと思います。Aさんの主張である、「ロボットは優しくしないと働いてくれない」は、本文中では述べられていません。×です。B君の主張は、「機械の操作に慣れてきたら、飽きずに使い続けられる」という内容ですが、同じく本文では述べられていません。×です。C君は、「ロボットには親しみを感じない」という主張ですが、これは本文で述べられていました。○です。Dさんは、「ロボットにはこちらの意図する返答ができない(=コミュニケーションがとれない)」という主張ですが、これも本文中で述べられていました。○です。

②の問題は、「新しい学力観に基づく問題」です。この問題は、複数の資料から設問に必要な情報を選び、取り出して、適切な解答を選んだり、作り出すという内容になっています。また、これからの学習で最も重要となる、論理的思考能力をはかる問題でもあります。

#### 問1 論理的読解の問題(選択)

□Aの後で生徒たちが話し合っている内容を総合し、その内容と矛盾のない選択肢を選びます。まず、ア、イ、ウについては、「古き良き大家族」「未来への生き残りをかけた競争」「外資系リゾート施設の誘致による外国との連携」という、後半の内容が会話文中にまったく出てこないで×です。エは、たしかに待機児童の解消は会話文中に出てきていますが、それは「地方創生」の一部分の施策にすぎず、「子育てのしやすい街作り=地方創生」ではありません。つまり、生徒たちの会話を総合的にとらえ、「地方創生」の全体像をしっかりと説明しているオが正解となります。

#### 問2 資料読解の問題(選択)

グラフ読み取りの問題です。□Bは、グラフ1~3を見て答えます。グラフの内容は、「若者にとって、これから地方と都市部のどちらで暮らしたいか」を示しています。全体の36%である都市部で育った人のうち、6.5%の人しか地方へ行きたいと回答していないのに対し、全体の64%を占める地方で育った人のうち、26.8%が都市に出て暮らしたいと回答しています。つまり、全体で見ると、都会に出たいという人の割合の方が多くなりますので、これからも都市への人口流入が予想されます。正解は、エとなります。また、□Cは、「先生から配信された資料2」をもとに考えます。地方創生のための取り組みの例を示した資料です。この中の資料ⅠやⅢでは、地方で生活したい、地方を訪れたいと思わせるための取り組みが、また、ⅡやⅣでは、地方で産業を振興する取り組みが紹介されています。これらを総合して考えると、正解キが導けます。

#### 問3 情報処理・判断力の問題(記述)

この問題は、示された複数の情報から必要な情報を取り出し、記述する力を試す問題でした。まず、先生からの問題の初めの条件は「アンケートの結果をもとにして、最後の【 】に入る言葉を考える」ということです。アンケート結果の5つを見て、大都市への人口集中の是正(=改善)が進むと答えているものをまず見つけることです。そう考えると、1つ目の「テレワークの定着、オフィスの近くに住む必要性の減少」と、5つ目の「ネットショッピングの普及で、どこでも生活しやすくなった」が、地方で暮らしやすくなる(=大都市への人口集中を是正できる)要因としてあげられると思います。2つ目、3つ目は「大都市が有利な点」を答えているので不可、4つ目は、大都市での感染症への警戒感が一時的だと読めますので、同じく不可です。次の回答の条件は、選んだ1番目と5番目をしっかりと過不足なく合わせて一文にする事です。つまり、正しい情報を判断し、取り出して、まとめて記述できるかどうかを試されているわけです。まとめて書くと、「IT関連の技術の発達」で、これによって「仕事や生活」を大都市でする必要性が減ったという点があげられます。もちろん、字数制限の範囲内であれば、テレワーク、ネットショッピングというワードをそのまま使って解答を作成してもかまいません。下に、解答例を示しておきますので参考にしてください。

(正解解答例)「テレワークの定着でオフィスの近くに住む必要性が減り、ネットショッピングの普及で、どこでも生活しやすくなったので。」  
「テレワークやネットショッピングの普及により、大都市で仕事をしたり生活する必要がなくなったので。」

(△解答)「テレワークやネットショッピングの定着で、地方で生活しやすくなったので。」(→仕事についての記述がない)

(×解答)「テレワークが定着し、オフィスの近くに住む必要性が減ったが、現在の感染症への警戒感は一時的なものなので。」(→意見の取り出しが間違っている解答はすべて×となります。)

#### 問4 資料読解、論理的読解の問題(選択)

まず、(①)(②)は資料2を読み取る問題となっています。問2の解説でも説明しましたが、この資料ⅠやⅢでは、地方で生活したい、地方を訪れたいと思わせるための取り組みが、また、ⅡやⅣでは、地方で産業を振興する取り組みが紹介されています。よって、①にはオ、②にはキが入ります。また、③には、「消滅可能性都市」について語っている生徒たちの発言を判断して、正解を導きます。ヒントとなるのは、Bさんの「長い間、日本が大切にしてきたものが失われてしまう」です。ここから判断して、正解はコとなります。

#### 問5 論理的読解の問題(選択)

生徒たちが調べたのは、「大都市人口集中に対する取り組み(=地方に移住をすすめるための取り組み)」ですから、それに関係しない(=あてはまらない)ものを選ばないとなります。ウは、皆さんもご存じの「ふるさと納税」という政策ですが、これは地方公共団体に日本各地から納税者を募って、地域の産業や財政を支えることで、活性化につなげようという取り組みです。つまり、大都市に人口を集中させないというよりは、現在の地方が潤うことを目的にしている取り組みですので、直接的にはあてはまらないと判断できます。正解はウとなります。しかし、正解であるアやイの取り組みも、実はどんどん推進することによって、過疎地を切り捨ててしまうのではないかというマイナス面もあります。これからの時代を生きる皆さんは、どうすればより良い「地方創生」が実現できるのかを、一度考えてみてください。

③の「古文」の問題は、鎌倉時代の説話集「発心集」からの出題でしたが、現代語訳をつけている部分もありましたので、現代語で理解できる部分をつなげていけば、話の大筋をつかみ、解答できたと思います。まずは、現代語訳を載せておきます。

【現代語訳】(わかりやすく、言葉を補って訳しています)

あるお坊さんが、船に乗って、琵琶湖を通り過ぎたとき、漁師が大きな鯉を捕まえ、持っていこうとしていました。その鯉がまだ生きていて、口をパクパクさせているのを見たお坊さんは、かわいそうだとおもって、着ていた着物を脱いで、買い取って逃がしてやりました。(お坊さんが)「今日はいいことしたなあ」と思っていたその夜の夢に、白い着物を着た老人が訪ねてきました。とても恨んでいる様子なので、不思議に思って尋ねてみると、「私は、昼、捕まて死ぬところだった鯉です。ところが、あなたがひどいことをしたので、それを恨んでいるのです。」お坊さんは、「わけがわからないなあ。助けてやったんだから、御礼を言われたっていいことなのに、どうして恨まれなきゃいけないのかなあ」と言いました。すると、老人は、「ごもっともです。しかし、私は、鯉として生まれ、苦しい(畜生の)世界からのがれて悟りを得るということを知りません。そうやって、この湖の底で、長い年月を過ごしてきました。ところが、たまたま、(漁師に釣り上げられたことで)賀茂神社のお供え物となって、やっとこの苦しみから逃れられると思ったときに、あなたがおせっかいなことに私を助けてしまったので、また畜生として生き続けなければいけません。」と言ったという、そんな夢を見たということです。

#### 問1 主語把握の問題(選択)

登場人物の行動をしっかりと整理しながら読めば、それほど難しい問題ではなかったと思います。現代語訳を参考に、解答を確認して下さい。古典では主語を省略した文章が多いですから、問題演習の際には、しっかりと誰の行動かを確認しながら読み進める練習が効果的です。

#### 問2 語句の意味を問う問題(選択)

それぞれ、周りの文脈から判断して解く問題です。①は、傍線部の前で、釣り上げられた鯉が「まだ生きてバタバタしていた」のを見て、お坊さんがどう思ったかを考えます。⑤は、傍線部の後の話の展開を判断の根拠としましょう。

#### 問3 内容把握の問題(選択)

ここでは、「功德(=仏教語。現世や来世に幸福をもたらすための善行)」の意味が分かれば簡単ですし、前後の文脈からも、「漁師に釣られて死にそうになっていた鯉を助けたこと」だと分かるといいます。正解は

ウ となります。

問4 「白狩衣着たる翁（＝白い着物をきた老人）」は誰でしょう。本文中で、老人が自分で名乗っている通り、「（大きな）鯉」ですね。ほかに、「鱗の身」も同意ですので正解です。

問5 なぜ、老人（＝鯉）は助けてもらったのに恨んでいたのでしょうか。それは、「助けてもらいたくなかった（＝命を落としたい）理由があった」のに、「うまくいかなかった（＝助かってしまった）」からですね。これを詳しく考えると、「【1点目】鯉の姿から生まれ変わりがかった（＝得脱の機会を得たかった）」のに、「【2点目】聖が買い取ることで助かってしまった（＝鯉の姿を続けることになってしまった）」からだと説明できます。この2点をしっかり記述してください。1つの観点しか記述のない解答は、△2点となります。

問6 聖が「臍に落ちなかった（＝納得できなかった）」ことはどういうことか、その大きなヒントとなるのは問3の正解である「聖が弱った鯉を助けるという良い行いとしたということ」にあります。聖は【1点目】いいことをしたと思ったのに、【2点目】恨まれていて納得が行かなかったのです。この2点を過不足なく説明してください。一つしか書けていない解答は、△1点となります。

問7 この話の根底にあるのは、仏教思想の「魂が生まれ変わりを繰り返す」という意味を表す「輪廻転生（りんねてんしょう・りんねてんせい）」という考え方です。この考えを知っていた人と、知らなかった人では、問題の理解度が大きく違ったと思います。知らなかった人は、一度詳しく調べてみて下さい。

## 対策と アドバイス

現代文の問題は、設問から、「何を答えれば良いのか」ということを読み取った上で、本文をじっくり読めば必ず解答を得られるようになっていきます。練習の際には、たまたま正解した、間違っただけで一喜一憂するのではなく、自分でしっかりと根拠を持った解答をし、解答に至る道筋が本当に合っていたのか、しっかりと解説を読んで理解しましょう。時間がかかるかもしれませんが、そうすることで本当の実力がついてきます。また、日頃から読書の機会を持つことで、語彙力を増やし、文のつながりや構造を理解する力＝読解力を養うように心がけましょう。来年度も、「漢字・口語文法（品詞の識別）・語句の意味」など基本的な言葉の知識を中心に出题する予定です。本校独自の問題については、必ず得点できるように対策を立てることが大切ですが、全体的には、中学校の授業で学習したことを正確に身に付けることを心掛け、問題を一つでも多く解くようにしてください。また、日頃から常に文章（活字）に触れることが一番です。読書を通じてしっかりと読解力をつけ、問題演習を通して、本文の中から答えを探し出す訓練を積んでください。また、学校によっては古文への取り組みが少ない学校もあるかも知れませんが、本校の古文の問題は、現代語訳での補助も多く、主に「文脈を判断する」問題になっていますので、日頃から古文に触れておくだけでも十分な対策になります。市販の問題集などを使って、文中の分かる言葉をつなげて、話の大筋をつかまえる練習を積んでおくとも良いでしょう。新傾向の問題については、今年と同様に、それほど特異な出題はしませんが、やはり何も対策をせずに本番を迎えるのは不安だと思います。学校などでも同じような問題に取り組む機会があると思いますし、近年では全国の公立高校で同様の問題が多く出題されています。学校の授業での演習の機会を大切に、公立高校の過去問題を調べたりして、地道に練習を重ねてほしいと思います。また、直前入試対策説明会（12月）では、模擬問題（新傾向）の解説を予定しています。本校で実際の問題に触れてみるのも貴重な経験になりますので、是非足を運んでください。最後に、国語力は、全ての教科の基礎とされています。国語の力が伸びれば、他の教科にも必ず良い影響をもたらしますので、しっかり勉強して下さい。